

ぐりーんず greens

第23号

2019.5 発行

理念: 地域社会に信頼される病院としての心温まる医療と急性期・高機能・先進医療との調和

基本方針

- ・本学の理念である「至誠と愛」に基づき、皆さまに信頼される病院を目指します。
- ・患者さんのプライバシーを守り、一人ひとりの権利を尊重します。
- ・つねに最先端の医療技術と知識を用いて、安全で良質の医療を提供します。
- ・患者さんに合った最善のチーム医療を行います。
- ・中核病院として地域の診療所・病院等との連携を推進し皆さまの健康を維持・増進します。



病院長ご挨拶



平成31年度より引き続き八千代医療センター病院長を拝命致しました。
さて、八千代医療センターの解決していくべき課題として、前期任期中に完遂することができなかった課題が、当面の八千代医療センターの目標になるかと存じ上げます。

- ・地域包括ケアシステムを見据えた取り組みとして入退院支援センターの円滑な運営と地域への定着
- ・Joint commission international(JCI)や日本病院評価機構などの第三者機関による医療の質や医療安全の評価とそれにともなう改善
- ・医師の働き方改革問題の解決
- ・救急、周産期や小児医療に於いて、千葉県内でより広域性と公益性を持った病院としての新たな位置付け
- ・病院収支の大幅な改善
- ・放射線設備や緩和医療供給体制の整備

などなどの大きな課題があります。着実にこれらの課題を解決し、八千代医療センターの輝かしい未来に寄与できるように勇猛精進していきたいと存じます。

最後に、皆様方の益々のご活躍とご健勝を祈念するとともに、今後ご支援を賜わりますことをよろしくお願い致します。

令和元年5月
病院長 新井田 達雄

副院長ご挨拶



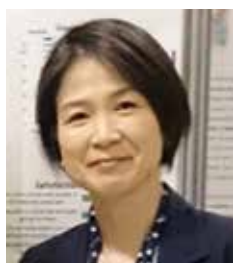
この度、医療局担当副院長を拝命しました正岡直樹と申します。重責ですが任務を果たすべく邁進したいと思っております。ご存知の様に政府の働き方改革は医療の分野にも及び、医師の荷重労働環境、健康確保が大きな問題となっております。

厚生労働省は平成31年3月29日に「医師の働き方改革に関する検討会報告書」を公開しましたが、そのなかで「地域医療提供体制の確保の観点からやむを得ない場合として年間1,860時間の時間外労働時間を提示しました。この対象とされる条件は、医療の公共性、不確実性、高度の専門性等の観点から、(ア)救急医療提供体制及び在宅医療提供体制のうち、特に予見不可能で緊急性の高い医療ニーズに対応するために整備しているもの(例:二次・三次救急医療機関、在宅医療において特に積極的な役割を担う医療機関)、(イ)政策的に医療の確保が必要であるとして都道府県医療計画において計画的な確保を図っているもの、(ウ)特に専門的な知識・技術や高度かつ継続的な疾病治療・管理が求められ、代替することが困難な医療機関・医師(例:高度のがん治療、移植医療等極めて高度な手術・病棟管理、児童精神科等)とされており、当院はまさにどの項目にも当てはまる医療施設といえます。

しかし、医療局担当としては、2024年4月の運用開始に向けて年間960時間以内を目標に労働環境改善に努力していく必要があります。すなわち医師の健康を確保することが、ひいては患者様に安心して受診していただく環境を作ることにつながるためです。

私の勤務しております母体胎児科・婦人科は県指定の総合周産期母子医療センターの産科部門を担当しています。総合周産期母子医療センターとは「相当規模の母体胎児集中治療室を含む産科病棟及び新生児集中治療室を含む新生児病棟を備え、常時の母体及び新生児搬送受け入れ体制を有し、合併症妊娠、胎児・新生児異常など母体または児におけるリスクの高い妊娠に対する医療、高度な新生児医療などの周産期医療を提供する施設」と定義され、当院では年間約200例もの母体搬送を受け入れております。この様に書くと合併症等なく、妊娠経過も順調な所謂ローリスクの妊婦様の受診が難しそうなお持ちになるかもしれませんが、当院ではその様な妊婦様の受診も大歓迎です。医師、助産師が協力して万全な対応をお約束します。もしお知り合いの方などいらっしゃいましたらお勧めしていただければ幸いです。

副院長 正岡 直樹



このたび、副院長、看護局局長代行を拝命しました出口(いでぐち)と申します。どうぞよろしく御願いたします。

私は、東京女子医科大学大学院看護学研究科で看護管理を修め、認定看護管理者の認定を受けております。「至誠と愛」という理念を掲げる東京女子医科大学に入職後、ずっと外科系で看護して来ました。その間、患者の個別性とはなんだろうとずっと考えていましたが、個別性とは、“患者が治療を続けたり障がいを抱えながら元の生活にもどり、これまで通りにお花見をしたり家族と生活することを支援することである”と理解するようになりました。

本院より八千代医療センターに異動し10年が経過しました。八千代医療センターでは外科混合病棟・集中治療室・救急外来・手術室などを担当し、最近では院内で就業している看護師の現任教育を担ってまいりました。また、4年前から八千代市健康福祉課の方々、医師会の先生方の協力を得て、看護師の復職支援の一助となるべく潜在看護師復職研修の企画・運営を行っております。

当院は、人口19万人を超えた八千代市を中心に、地域の中核病院として高度医療を提供し、行政や地域の皆さまと連携する地域完結型の医療体制構築を期待され進んでいます。昨年、入院前から退院後の切れ目のない医療サポートを提供し、住み慣れた地域に戻ることに伴う支援を目的に、入退院支援センターが発足しました。5名の看護師を中心として多職種チームで活動しており、その成果も見られております。

また、八千代市では健康福祉都市を目指し、市民の皆さんの生涯を通じた健康づくりを推進する「八千代市第2次健康町づくりプラン」を掲げておられます。私は、健康の維持増進、疾病の予防から始まり、疾病・障がいを抱えながらの療養生活の継続、生活の質の維持等、地域で支えていくためには、看護師の力が欠かせないと考えています。

地域包括ケアシステムの中で、当院の看護師も急性期看護を担う一人として活動しています。個人の尊厳を基盤に倫理的態度を身につけ、専門的知識と技術を提供する専門職として、健康・医療と生活、両方の視点を持ち、多様な場で役割を発揮するよう努力し成長していきたいと考えています。今後ともご指導のほど、よろしく御願ひ申し上げます。

副院長 看護局局長代行 出口 香緒利

精神科・心身医療科



令和元年を迎える4月1日より精神科・心身医療科科長を拝命しました高橋一志(タカハシ ヒトシ)と申します。私は、秋田大学医学部を卒業後、すぐに精神医学の道に進み、そのまま約10年間、秋田にて臨床及び研究活動を行ってまいりました。その後2年間程、米国アトランタに留学し、帰国後は東京女子医科大学本院に籍を移しました。それ以後12年が経過し、干支が一回りしたところです。秋田の田舎も知り尽くし、大都市新宿も知り尽くし、ほとんど知ってしまいました。(何を?)あとは、「酸いも甘いも知っている」なんてことになれば完璧です!

さて、八千代医療センターでの私の仕事は、前任の内出容子先生が種をまいた「リエゾン精神医学」の活動を、院内の隅々まで浸透させることです。「リエゾン」とは「繋がり」を意味するフランス語になります。身体の病氣と闘っている患者さんの心理的負荷は実のところ想像以上です。院内自殺が社会問題化して久しいわけですが、未だ減少する兆しがありません。ありとあらゆる身体疾患に併存する精神・心理的問題を扱うのがリエゾン精神医学ですので、当然、精神科医師のみでの対応は厳しく、診療科の主治医の先生、担当看護師、臨床心理士、リエゾナーズ、精神保健福祉士、作業療法士、薬剤師などがお互いに「繋がり」を持ち、多職種を交えたチームでのアプローチが重要になります。患者さんのためだけではありません。

患者さんの抱える苦痛があまりに大きく深い場合、それに向き合わなくてはならない医療者は、時には怯(ヒル)み、時にはそこから目をそらしたくなることがあります。医療者も人間ですので当然です。しかし、まさにそんな時です、チームの力がモノをいうのは、チームの力は患者さんだけでなく、医療者にとっても大きな応援団になります。「精神的な問題を抱える患者に対して、どのように話しかけてよいのか分からない」と悩んでいるスタッフも多いかと思います。「わざわざ精神科を呼ぶほどの問題でないけれど、どうしたらよいのか迷う」という状況に対して、最初は精神科が関わることで徐々に医療者のメンタルケアスキルが上昇し、スタッフが自信を持って患者さんに対応出来るようになれば、それが本望です。私の理想は、皆さんの「良き御用聞き」になることです。使い勝手は良い方だと自負しております。是非お見知りおきを!!

科長 高橋 一志

歯科口腔外科



平成31年4月1日付けで歯科口腔外科診療科長を拝命しました岡本俊宏と申します。

当科では、難易度の高い抜歯、歯の破折・脱臼・顎の骨折などの外傷、歯を原因とする炎症、顎骨嚢胞、口腔良性腫瘍、口腔がん、口腔粘膜疾患、顎関節症および口腔顔面痛など、多岐にわたる口腔外科疾患の治療を中心として、また、インプラント治療も行なっています。そのほか、薬剤の影響で血が止まりにくい場合の抜歯、心臓疾患や腎臓疾患や糖尿病などの抜歯や歯科治療を行っております。

口腔がんは、近年増加傾向にあります。口腔がんの発症年齢は50歳以上が約80%を占めており、中でも70歳代が最も多くなってきています。したがって、高齢者の増加する日本ではさらに口腔がんが増加することが予想され、地域の先生方と協力して、早期発見、早期治療に尽力したいと思っております。

近年、周術期口腔機能管理という分野が注目されています。これは、各種のがん・脳卒中・心疾患の手術、人工関節置換・臓器移植に対する全身麻酔の手術、造血幹細胞移植・抗がん剤投与・放射線治療の際、その前後に口腔衛生指導、口腔清掃、抜歯を含む歯の治療などの口腔機能管理を行うことにより、術後の誤嚥性肺炎や感染症、化学療法による口内炎などの合併症を予防、軽減させるというものです。また、骨粗鬆症やがん治療に使われる骨吸収抑制薬や血管新生阻害剤などの薬剤がもたらす顎骨壊死が増加しており、周術期に限らず、これらの薬剤を内服開始する前にも同様に口腔管理を行うことで、顎骨壊死の予防につながると考えています。

今後とも地域の中核病院の歯科口腔外科として、病診連携、病病連携に積極的に取り組み、地域医療に貢献したいと考えております。ご指導、ご鞭撻のほどをお願い申し上げます。

科長 岡本 俊宏

組織改変に伴う部署名称変更及び連絡先のご案内

当院では大学附属病院、地域の中核病院として関係機関と連携し、地域医療および地域包括ケアを推進しております。今回、その機能を強化すべく、昨年4月に開設した「入退院支援センター」を基軸とした組織改変を行い、地域連携やベッドコントロール、ソーシャルワーカーによる相談支援部門を統括した「入退院支援室」を新設しました。

入退院支援室には看護師をはじめソーシャルワーカーや地域連携担当事務、ベッドコントロール看護師等が在籍し、円滑な入退院支援を推進して参ります。

従来の「医療支援室」所属の退院調整看護師、ソーシャルワーカー、地域連携担当事務と「ベッドコントロール室」所属の看護師長・事務員は「入退院支援室」所属に変更となります。各職種の基本的な役割の変更はございません。ご相談の際は「入退院支援室」の各担当へご連絡頂けると幸いです。

なお、地域連携担当事務へのご連絡は従来通り地域連携直通電話(047-458-6543)をご利用下さい。ご利用時間帯等の運用変更はございません。

お知らせ

ご紹介の際は、紹介状(診療情報提供書)をご用意頂き、事前のご予約をお願い致します。

医療機関からの診察・検査連携のご予約(地域連携直通)

TEL 047-458-6543 FAX 047-458-6545

受付時間 平日 9:00～17:00・土曜日 9:00～13:00

※日曜、祝日、第3土曜日、創立記念日(12/5)、年末年始(12/30～1/4)はお取扱していません。

※時間外の場合はFAXを送信して下さい。翌受付時間内にご連絡させていただきます。

※予約日時・医師等の変更を希望される場合は前日までにご連絡下さい。

医療連携マネージャー(医師)

緊急を要する当日(日中)のご紹介は、紹介診療科が定まっている場合は従来通り当該診療科の医師が対応します。担当診療科の特定がしにくい場合は、「医療連携マネージャー」が電話対応をさせていただきます。ご対応は地域連携直通電話の受付時間内とさせていただきます。

検査連携(医療機関から申込)

検査連携のご依頼は地域連携直通電話の受付時間内とさせていただきます。

応需検査:CT、MRI(単純)、RI、XP、マンモグラフィ、骨密度測定、セファロの画像検査

患者さんからの診察のご予約(予約センター)

TEL 047-458-6600

受付時間 平日 9:00～16:00・土曜日 9:00～12:00

※日曜、祝日、第3土曜日、創立記念日(12/5)、年末年始(12/30～1/4)はお取扱していません。

※予約日時・医師等の変更を希望される場合は前日までにご連絡下さい。

やちよ夜間小児急病センター(中学3年生までの小児対象)

TEL 047-458-6090

受付時間 毎日 18:00～23:00

医療相談は行っていません。ご予約の必要はありません。受付時間内に直接ご来院下さい。

第8回地域医療連携フォーラム開催報告

平成31年2月2日(土)にウイシュトンホテル・ユウカリにて「第8回東京女子医科大学八千代医療センター地域医療連携フォーラム」を開催しました。

当日は八千代市医師会及び歯科医師会をはじめ、近隣の医師会、歯科医師会、薬剤師会、地域医療支援病院における連携登録医の先生方、メディカルスタッフ、行政機関の皆様、院内参加者を含め、約200名の皆様にご出席頂きました。

第1部ではワーク・ライフバランス上級コンサルタント(WLB社)日本郵政株式会社人事部企画役伊藤伸也先生から「ワーク・ライフバランスと地域医療連携」のご講演を頂き、ワーク・ライフバランス、自主的な働き方改革の重要性について判り易い解説、明日から実践する必要性を改めて認識させられる機会を共有させて頂きました。

第2部では意見交換会・懇親会を通じ各職種間の幅広い交流の機会になったと考えております。今後もフォーラム等の機会を通じ、地域医療の更なる推進・充実に邁進してまいります。引き続き、ご指導ご鞭撻、宜しく願い申し上げます。

なお、次回は令和2年2月29日(土)の開催を予定しております。



東京女子医科大学

八千代医療センター

TOKYO WOMEN'S MEDICAL UNIVERSITY YACHIYO MEDICAL CENTER

〒276-8524 千葉県八千代市大和田新田477-96

TEL 047-450-6000(代表)

FAX 047-458-6545

入退院支援室 TEL 047-458-6543(直通)